

2016年12月14日（水）～12月16日（金）

震災・復興とリスクマネジメント（ ○ ） 国際都市神戸と世界の文化（ ） 提言：国際紛争・対立から平和・協調へ（ ） グローバルサイエンスと拠点都市神戸（ ） その他（ ）

## 第2回 仙台交流プログラムを実施しました

[概要]

### 1 テーマ

神戸大学附属中等教育学校 SGH「震災・復興とリスクマネジメント」

震災（Disaster）・復興(Reconstruction)・減災（Reduction）・レジリエンス（Resilience）（DR3）をテーマとした仙台交流プログラム（通称：DR3）

### 2 目的

被災地体験を共有する神戸市と仙台市の高校生・大学生が交流しながら、大規模震災に対するリスクマネージメントについて多角的な視点から学ぶ。

具体的には、神戸大学附属中等教育学校と仙台周辺の高校生・大学生が交流しながら、

- (1) 身近な地域に起こった、あるいは今後起こるであろう自然災害について共に学ぶ
- (2) 震災遺構見学や語り部講話などを通して震災の記憶をどのように後世に伝えていくかを共に考える
- (3) 津波堆積物ボーリング調査などを通して、自然科学的研究手法から震災を捉え、理解する
- (4) 上記活動を通して、他を思いやることのできる生徒を共に目指す

ことを主たる目的とする。

### 3 スケジュール

12/14 水	6:10 7:10 8:25  10:00-12:00 14:00-17:30	関西国際空港集合 関空発 MM131 便 仙台空港着 仙台空港駅→仙台駅（仙台空港アクセス線・JR） 仙台駅→仙台白百合学園（宮城交通バス） 仙台白百合学園交流活動 古川黎明中高等学校（SSH 校）研究発表・交流
12/15 木 多賀城高 校との合 同フィー ルドワー ク	8:00 9:30 11:00 13:00 16:30 16:30-18:30	多賀城高等学校 南三陸町または石巻雄勝の雄勝硯生産現場 大川小学校 女川町フィールドワーク 多賀城高等学校 多賀城高等学校にて交流・ディスカッション JR 野蒜駅「こころをつなぐ1万人のメッセージ『希望の虹』」見学 旧野蒜駅震災遺構見学
12/16 金	9:30 14:30-15:30	鶴ヶ谷地区災害公営住宅到着 東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室（SCRUM）交流

16:00-17:30	東北大学リーディング大学院交流
18:30	仙台空港
20:10	仙台空港発 MM140 便
21:50	関西国際空港着・解散

4 活動のようす



SGH 校の仙台白百合学園高等学校訪問・研究発表



白百合学園の高校1年生と昼食を取りながら交流しました



白百合学園の生徒さんとの記念撮影



SSH 校宮城県古川黎明高等学校における活動報告（4年生）



5年生の卒論についての発表



古川黎明高等学校有志生徒さんとの交流活動



グループごとに課題研究について情報交換しました



宮城県多賀城高等学校合同フィールドワークの開会式



落ちそうで落ちない巨石から「受験の神様」とされる宮城県石巻市北上町の釣石神社。社務所と祈祷（きとう）殿は津波で流出し再建された



津波の到達点



津波到達点からの遠景



大川小学校跡地で遺族の方からお話を伺いました



大川小学校跡地で遺族の方からお話を伺いました



小学校の裏山に登っています。ここに避難していれば助かったのではないかとされています



多賀城高等学校の小泉校長先生にも当時の様子を教えていただきました



雄勝町の名産品である硯生産工場の見学です



JR 女川駅からの眺望です。女川は防潮堤を作らず、「海とともに生きる」ことを選択したことを学びました



女川で活躍されている方から講話をいただきました



フィールドワーク終了後多賀城高等学校にて、生徒会執行部の生徒さんと交流を行いました



本校の活動紹介です



小グループに分かれ、今後の減災教育ゲーム共同開発について話し合いました



JR 野蒜駅の「こころをつなぐ1万人のメッセージ『希望の虹』」



JR 野蒜駅の「こころをつなぐ1万人のメッセージ『希望の虹』」



多賀城市内の鶴ヶ谷復興公営住宅を訪問しました

を見学しました



多賀城市内の鶴ヶ谷復興公営住宅を訪問しました

を見学しました



住宅最上階には防災倉庫が備えられています



手芸を楽しむ住民の方と交流しました



復興住宅前です



東北大学ボランティア支援室 (SCRUM) の学生と交流しました



東北大学リーディング大学院の学生と交流しました



本校が取り組んでいる減災アクションカードゲーム活動について報告しました



大学院生からも有益なアドバイスをいただきました



最後に作成したフラッグを渡して閉会です

## 5 参加生徒の所感

### 5 年生 A くん

私にとって仙台交流は貴重な経験になりました。実際に体験した話を同世代の人から聞くことができたこと、また自分の目でどんな悲劇があったのかを見ることができたこと、自分にとっては初めてのことばかりで一つひとつがとても興味深いものでした。特に、**3**つの高等学校と交流できたことは私の震災と復興に対する理解を深め、今後の活動をしていく上で大きな糧となりました。交流した相手校の人と友だちになることができ、自分にとって東北がより近い存在になりました。また、現地での活動中は震災についてあまり知識を持っていない者として、熱心に取り組むことができました。これからは、震災について現地で得たものを、自分が語り継いでいかなければならない存在となります。今回の学びを自分が住む関西で積極的に発信していきたいと思います。そしてまたいつか東北に帰って、今回の活動を思い出しながら現地の人と復興や減災について考えていきたいと思います。

### 5 年生 Y さん

今回、初めて **DR3** の仙台交流プログラムに参加させていただくことになり、活動を通して感じたことや思ったことを、初めて参加するからこそ1つひとつ大切にしようと考えていましたが、この三日間、自分の感じたこと、思ったことは多々あるのに、思い浮かぶ言葉はどれも正しくない気がして、自分の感じたことを言葉にして相手に伝えることができませんでした。実際に自分の目で見て話を聞いた私にできることは、一人でも多くの人に伝えることだと思うので、まず言葉にすることから始めたいと思います。

古川黎明中等学校との交流は今回の**3**日間で一番考えさせられるものになりました。復興とは何なのか、被災地がどうなればいえるのか全く分からず悩んでいましたが、実際に震災を体験した同世代の人たちの考えを聞くことができ「復興には表面的なものと、そうでない根深い見方があるって“もう**5**年も経ったんだから”と言う人も多くいるけれど、そこまで気持ちが付いて行っていない人が今も沢山いるということを被災地に住んでいない人達には分かっているほしい。それだけでいい。」という言葉が自分の中にとっても刺さりました。

**3**つの学校と交流したり、鶴ヶ谷復興住宅を訪問して、そこに住む人たちと出会って話しをしたりしたことで、東北を身近なものに感じ始めた自分がいました。「この人達が住むここにもう一度来たい」と人と交流するなかで最も大切なことを感じる事ができたと思います。

### 4 年生 T さん

今回、この仙台交流活動に参加して本当に良かったと感じています。今までの私の **DR3** 活動は自分の興味・関心に動かされていました。今回、はじめて‘リーダー’という役割を務めさせていただき、活動中も何度も失敗しましたが、行く前より成長したと感じています。リーダーシップと、メンバーシップはいつも表裏一体にあることを強く実感しました。三日間の中で、たくさんの活動をさせていただきました。特に印象に残っているのが、大川小学校と女川町の訪問です。テレビで何度も遺族の方の声を聴いたことがあります。でも、実際聞くのとは「こえ」が違いました。語り部の佐藤さんの話すちょっとしたトーンや表情、すべてを見逃さないようにしました。私は、ここで自分の使命感を感じました。私の弟と同じ小学生が犠牲になった。そう思うと、危機感しかなくて、防災教育、教育として学んでいる場合ではないのではと感じました。私は、被災を経験していない人々が地震の恐怖、津波への意識を日々持ちながら生活するのは難しいと思うので、被災地とつながりを持ち続け、まだつながりがない人々をつなげる役割を果たしたいと考えます。具体的には、今回たくさんの高校と学校交流をした経験を活かすことです。被災地を訪れる意味は、私の中で数えきれないくらいあると感じています。今回、活動に参加してはっきりしたのは、一言でいうと身を守るためです。この活動を活かし、地元での活動に還元します。